

情報共有 (2枚) 「主管理ソニ」

東京電力株式会社

官邸、NISA等(--- アレス別シートへ)

機密 開不可

プラント状況(本店レク)議事メモ

机密

日時：平成23年8月15日(月) 11:00~11:20

場所：東京電力本館3階大会議室

先方：記者約25名(カメラ3台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ(8月15日6:00現在)

[REDACTED]よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 共用プールの溜まり水について詳しい場所、流入経路を教えて欲しい。

A. 地下1階の北側エレベーター前の通路に溜まっていた。経路については共用プール建屋脇のトレーニングの電線管からの流入を確認している。前回確認した場所とは違う。

Q. 電線管に亀裂が入ってきているのか。

A. もともと建屋と電線管は貫通しており、オーバーフローしている形で建屋に入っていると考えている。

Q. SPT受け入れタンクに溜まり水を移送後、止水工事をするのか。

A. 1階のD/G復旧作業等をしているので、タイミングを見て移送、止水工事が必要と考えているが、今すぐに実施しなければならないという状況ではない。

Q. 電源系への影響があるのではないか。

A. 地下1階には電源系の設備もあるが、現在、使用していないので特段問題はない。  
また、プール水の冷却塔は外に置いている。

Q. SARRYは順調にいけば18日に本格稼働するということか。

A. 午後に詳細をお伝えするが、順調にいけば18日にインサービスになると思う。

Q. インサービスの際、どのような運用をするのか。

A. セシウム吸着装置(KURION)がベッセル交換の際に一時停止するので、SARRY、AREVAの処理ラインに変更することで停止時間を減らしたい。SARRY単独でDF値10の4~5乗の能力が確認されれば単独運転も考えられる。

また、現時点の処理量は50m³/hであるが、今後、処理量を向上させたいとも考えている。

Q. 稼働率の目標は18日以降に90%ということでよいか。

A. 18日以降の稼働率は90%で評価を行っている。

Q. 共用プールは通常、地下水の流入が発生する場所なのか。また流入原因は地震の影響によるものなのか、それとも地下水の上昇によるものなのか。

A. 1つは地震と津波により、トレーニングについては隙間やひびが発生し、そこから地下水が流入している可能性がある。もう1つは、サブドレンポンプが停止しており一時的に水位を下げられないため、通常より地下水位が高く、トレーニングの継ぎ手や隙間から漏れやすい状況である。

Q. サブドレンポンプの再稼働時期は。

A. 時期の目処はたっていない。

Q. 今後も同様の浸水があるのではないか。

A. 3号機コントロール建屋において、電源ケーブルダクトからのオーバーフローが発生しているが、地下水位を人為的に下げるごとに、流入箇所を埋めることが必要と考えている。

Q. 共用プールの溜まり水の量が9m<sup>3</sup>のことだが、面積はどの程度か。またどのような止水工事を実施するのか。

A. 面積は900m<sup>2</sup>で水深は1cmである。止水工事については具体的には決まっていないが、流入箇所をコンクリートやパテで埋めることになると考えている。

Q. 電線管からの流入箇所は、地震で破損した箇所なのか。

A. 電線管そのものではなくトレーニングが地震等でひびや亀裂が発生していること、またトレーニング同士はパッキンのようなもので繋がっているがそのパッキンがずれたことにより、地下水が流入しやすい構造になっているのではないかと想定している。津波よりは地震の影響が大きいと考えている。

Q. ふくいちライブカメラが最近見られなくなったが、バックアップとしてもう1台カメラを増やすべきではないか。

A. 昨日通信不良により見られなくなってしまい申し訳ない。信頼性向上に向けた対策を検討したい。

Q. 5, 6号機の汚染水受け入れタンクの写真を7月4日にロイター通信が公表している。海外のマスコミは発電所に入ることが出来るにもかかわらず、日本のマスコミは中に入れないのか。

A. 当該写真をどのように入手したのかについては把握していないが、当社として現場で取材に応じたことはない。

Q. マスコミは発電所内に入ることは出来ないのか。

A. 現在、事故の収束に全力を尽くしており、現場取材についてはお断りさせて頂いている。ただ、線量も下がってきており現場取材については検討している段階。

以上

小吉田 芳有

非営利メモ

347

プラント状況（本店レク）議事メモ

8/16 10:00

午後午前

午前

[REDACTED]

日時：平成 23 年 8 月 15 日（月）18:00～18:35

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 30 名（カメラ 3 台）

当方：原子力・立地本部 [REDACTED]

原子力運営管理部 [REDACTED]

原子力設備管理部 [REDACTED]

広報部 [REDACTED]

配布資料：

- 福島第一原子力発電所の状況
- 福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について（第百四十三報）
- 福島第一原子力発電所付近の海水からの放射線物質の検出について（第百四十五報）
- 福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について（8月14日採取分）
- 集中廃棄物処理施設 サブドレン水核種分析結果（8月14日採取分）
- 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ（8月15日 12:00 現在）

[REDACTED] によりプラント状況、配付資料に関して説明。

※NHK「ETV 特集」（8月14放送）における報道についての説明。

- 非常用ディーゼル発電機を地下へ異動したとの指摘について
- 水素爆発を影響とする格納容器頂部の画像の使用と説明について

質疑：

Q. サリーの試運転を行う 16、17 日は、汚染水処理装置全てを停止するのか。

A. 8月16日の12時から17日の21時までは全て停止する予定である。そのため、プロセス主建屋に溜まっている高濃度汚染水の処理を約2日間延期するが、原子炉への注水は継続する。

Q. 福島第一原子力発電所の免震重要棟は汚染がひどいと聞いているが、どのような状況か。

A. 免震重要棟の空間線量およびダスト濃度の具体的なデータについては確認するが、全面マスク無しで立ち入っても問題ないレベルである。免震重要棟へ出入りする際は装備の確認、放射線のサーベイを行っているので、放射性物質が持ち込まれる可能性は極めて低いと認識している。

Q. 現在免震重要棟は正常に機能しているのか。

A. これまで数回停電が起きたが、非常用ガスタービンが正常に稼働しており、問題無いと考えている。

Q. 水処理施設の不具合に関する報告書について、保安院への報告の目処は。

A. これまでの不具合の原因と発生箇所をどのように点検するかについて、計画書を準備しているところ。それに基づいて調査の結果や不具合のリストを8月下旬に提出する予定である。

Q. サリーの使用方法について、他の設備との接続方法は2通りで良いか。

A. サリーとアレバ、キュリオンとサリーとアレバ、キュリオンとサリーをそれぞれ直列につなぐ3通りの使用方法を考えている。

Q. サリー単独での試運転を行わないのはなぜか。

A. 他の装置との試運転においてサリーのDFを確認できれば、単独運転した際のDFも想定できると考えている。

Q. 試運転の際はどの程度の高濃度汚染水を使うのか。

A. 試運転では $10^6$ Bq/hと $10^8$ Bq/hの2種類の汚染水を使う予定である。

Q. その汚染水はどこから用意するのか。

A.  $10^6$ Bq/hの水はSPT(B)内にあるアレバの処理水であり、フラッシングをする際にも使用している。 $10^8$ Bq/hの水は、SPT(A)に溜まっている水である。

Q.  $10^6$ Bq/hオーダーの水は本格運転の際に初めて処理するのか。

A. その通り。

Q. 水処理装置の制御室の汚染状況および作業体制は。

A. 制御室内の空間線量としては、 $20\mu\text{Sv}/\text{h}$ ～ $30\mu\text{Sv}/\text{h}$ である。作業体制は1班あたり8名の運転員があり、全部で6班の構成。その6班が2交代で24時間業務を行っている。作業員の累積被ばく量は8月11日現在で最大8.25mSv、最小1.75mSv。

Q. 今後、運転員の入れ替えは行うのか。

A. 作業の習熟という観点からも何名かは入れ替えを行ってゆく。

Q. 今後の計画として、どのくらいの被ばく量を上限と考えているのか。

A. 協力企業内の社内基準もあるため、確認を行いながら検討していく。

Q. どこの企業が運転を行っているのか。

A. 秘密の話であるため、回答は差し控える。

Q. 秘密の話であると、なぜ話すことができないのか。

A. 特に大きな物品を運搬するとか、大きなケガが発生した場合等は、皆さまの関心が高いことから公表させて頂いているが、個別の協力企業の契約については公開していない。

Q. 運転を行っている企業は単独か、それもとJVか。

A. 単独の企業である。

Q. ヒドラジンを入れていたと思うが PH はどの程度になっているか。

A. これまで 4 号機やその他号機に注入しているが、ごく少量であるため PH に大きな影響を与えるものではないと考えている。

Q. 現状としては、4 号機のみヒドラジンを入れているのか。

A. 最近入れたのは 4 号機である。

Q. 共用プールのたまり水について、土曜日（8月 13 日）に見つかっているのに、発表が本日（8月 15 日）になった理由は。また、保安院の会見でも報告が遅いと言っていたが、どう受けとめているのか。

A. 土曜日（8月 13 日）の午前 6 時頃に発見しているが、発電所や安定化センター、本店、保安院への報告が昨日（8月 14 日）夕方の全体会議で情報が共有されており、1 日半の間、パトロールを実施した箇所と報告を受けた箇所で情報が留まっていた。

溜まり水は共用プール地下 1 階の床面に 1cm 程度あるが、以前にも当該箇所にトレシチから流入したことがあり、報告についての感度が悪かったものと考えている。保安院からも指示を受けていることから、水漏れに関して早く報告するよう努めてまいる。

Q. パトロールの結果が、関係各所のどこまで共有されていたのか。

A. 見つけたのは協力企業のパトロールであり、どこまで当社側が知っていたのか、また、報告を受けた際に当社側でどのような判断があったのか確認する。

Q. 安定化センターでは、このような状況を必ず把握している必要がないのか。どのような運用になっているのか。

A. 安定化センターでは道筋に従い事故の収束に向けた作業の工事管理、工程管理を行っている。1F 緊急時対策本部は炉注入などのプラントの運用・管理、パトロール、点検を行っており、今回の溜まり水などの確認については 1F で実施している。日々の状況を関係各所で共有しているものであるが、今回については土曜（8月 13 日）夕方に共有されるべきだった。

Q. 全体会議で保安院にも情報共有されているのか。

A. 全体会議は、テレビ会議も保安院とつながっている。現地には保安検査官、本店にも保安院の方が在中しているため、情報共有される。

Q. 保安院からの注意は会議で共有された際に受けたものか。

A. 保安院からどのようなルートで、いつ注意を受けたのかについては確認する。

以 上